くりでんOBらが出席した愛好会の設立総会。動態保存に向け、運転担当者を養成する方針を申し合わせた

くりでん保存愛好会設立

「動態保存」担い手目指す

OBら50人

廃線となった栗原市の第三セクター「くりはら田園鉄道」（くりでん）の車両の保存や活用に協力しようと、同社OBや鉄道ファンらが10日、「くりでん保存愛好会」を設立した。市は若柳駅構内を鉄道公園として整備し、車両を走らせる「動態保存」を計画しており、愛好会は市と連携し車両の運転や整備の担い手を目指す。

愛好会はくりでんOB17人ら会員50人でスタート。栗原市若柳のくりでん本社で開かれた設立総会には、市の担当者も出席した。

くりでんOBの鈴木満会長（74）は「遺産を鉄道公園として残すことに深く感謝することあいさつ。佐藤勇市長は「どのような公園にするか、運営をどうするかなど、組織で夢を語り合ってほしい」と述べた。

総会では本年度の事業計画などが承認された。車両の運転と整備を担当するスタッフを会員の中から養成する。くりでんの保存活動を続けてきた鉄道ファンら5人が候補となっており、OBから指導を受ける。市は6月13日を皮切りに11月まで月1回の乗車会を計画しており、愛好会で運営をサポートする。新しい会員の募集は5月10日から始める。

愛好会の設立メンバーは昨年秋の栗原市産業祭りで、ボランティアとして乗車会の運営に携わった。佐藤市長は「動態保存は専門的な技術と経験が必要」として、OBや乗車会にかかわったボランティアらに協力を求める考えを示していた。

かほピョンくらぶ 仙台駅東口地区で触れ合いイベント

生協と春の感謝祭

みやぎ生協（仙台市）と河北新報の会員組織かほピョンくらぶが連携した地域活性化イベント